

美しいデザインで、企業とまちの魅力アップ！

路面電車 車体広告デザインの手引き

2023年2月

豊橋市



Contents

❶	この手引きについて	03
	(1) 目 的	03
	(2) 位置づけ	03
	(3) 対 象	03
❷	車体広告の姿勢	04
❸	デザインの基本的な考え方	05
❹	デザインの指針	08
	(1) 色 彩	08
	(2) 文字と絵	13
	(3) レイアウト	15
❺	参考資料	18
	マンセル表色系について	18



(1) 目的

近年、地域の魅力の向上や美しいまちづくりがますます重要な時代になってきました。そうしたなか、路面電車を活かした都市再生が各地で進んでいます。先進都市では、路面電車に関わる施設（車両、軌道施設、サインなど）と都市空間を一貫したコンセプトでトータルにデザインし、魅力ある景観を創出するまちづくりが進んでいます。

豊橋では、これまで、路面電車をまちのシンボルとし、センターポール化をはじめとした道路景観整備、停留場の改良、軌道の緑化など、路面電車を活かした魅力ある都市整備が官民一体で進められてきました。また、路面電車は広く市民から愛され続け、L R Vほつらムの導入の際には多くの寄附が寄せられるなど、路面電車が走るまちは、市民に支えられ育まれてきました。

一方で、路面電車の車体広告について、デザインの質を高めることができないか、といった声が聴かれるようになり、収益の確保と景観への配慮を両立することが課題となっていました。

この手引きは、そうした課題に対応するとともに、路面電車と豊橋のまちの魅力がさらに向上し、将来にわたって愛され続けることを目指してまとめたものです。今後は、本手引きを有効に活用し、路面電車が走る美しいまちをともに育んでいきましょう。

(2) 位置づけ

本手引きは、上記の目的のもとにまとめたもので、法や条例に基づく規制ではありません。また、斬新なデザインを妨げるものでもありません。路面電車の車体広告を検討する際に、広告主やデザイナーの方々にご一読いただき、参考にさせていただくものです。

(3) 対象

本手引きは、豊橋市内を走る路面電車を対象とするものです。

なお、祭りやイベントなどで運行する特別な車両については、本手引きの対象外です。



- ① 景観に配慮し、まちの魅力を高める
- ② 美しく表現し、心地よく伝える

① 景観に配慮し、まちの魅力を高める

路面電車は、豊橋のまちのシンボリックな存在で、市民に長く愛され続けています。また、路面電車が走る景観は、豊橋を訪れる人々の脳裏に刻まれ、マスメディアにも広く取り上げられ、豊橋のまちのイメージをつくりだしています。

車体広告のデザインが、景観に配慮した質の高いものになることで、路面電車の走る姿が絵になる景観となり、豊橋のまちの魅力がより高まるでしょう。それとともに、路面電車は、より多くの人たちに愛されるようになるでしょう。

② 美しく表現し、心地よく伝える

屋外広告物は、製品やサービスをPRするだけでなく、社会に対する企業の姿勢も表します。

自己主張をしすぎた派手な広告ではなく、景観に配慮した美しいデザインの広告は、さりげなく人の目を引き、心地よく受け手に伝わり、宣伝効果も高まるでしょう。また、そうしたデザインは、好印象を与え、企業の評価や企業価値も高まるでしょう。

- ① 心地よい色彩で、周辺の景観に調和させる
- ② 情報を絞り、シンプルに表現する
- ③ 車体に合わせ、美しくレイアウトする
- ④ 交通安全に気を配る

① 心地よい色彩で、周辺の景観に調和させる

路面電車は、豊橋駅から東部の落ち着いた住宅地まで走り、市民にとって暮らしの景色の一部になっています。車体広告のデザインが、まち並みに調和した心地よい色彩になることで、市民の暮らしの環境はより豊かになり、企業やお店に対する好感度も高まるでしょう。



公会堂の前を走る豊橋けいりん号

- 車体広告のデザインを考えると、どんな場所を走るのかイメージしてみてください。「まちと調和し、絵になる景観をつくる」といったコンセプトでデザインすると、より魅力あるものになるでしょう。

② 情報を絞り、シンプルに表現する

情報が多すぎるとデザインが複雑になり、伝えたい情報がかえって分かりにくくなります。伝えたい情報を絞り込み、優先度の高い情報を、質の高いシンプルなデザインで表現しましょう。

③ 車体に合わせ、美しくレイアウトする

車体には、窓や扉、照明設備などがあり、表面には凹凸や曲面もあります。また、車体の形式によってそれらの位置や形状は異なります。色の塗分けを窓枠の位置に揃えたり、文字や絵の周りに適度な余白を設けたりするなど、車体と広告のデザインが美しく調和するようにしましょう。

④ 交通安全に気を配る

次のようなデザインは、ドライバーの注意を極端にひきつけるなど、交通安全に支障をきたすので避けましょう。

- ・複雑で奇抜なもの
- ・派手な色彩や蛍光色を用いたもの
- ・点滅や発光、反射するもの
- ・信号機や道路標識等の効用を妨げる恐れのあるもの
- ・文字情報が多すぎるもの
- ・夜間に車体の存在がわかりにくいもの

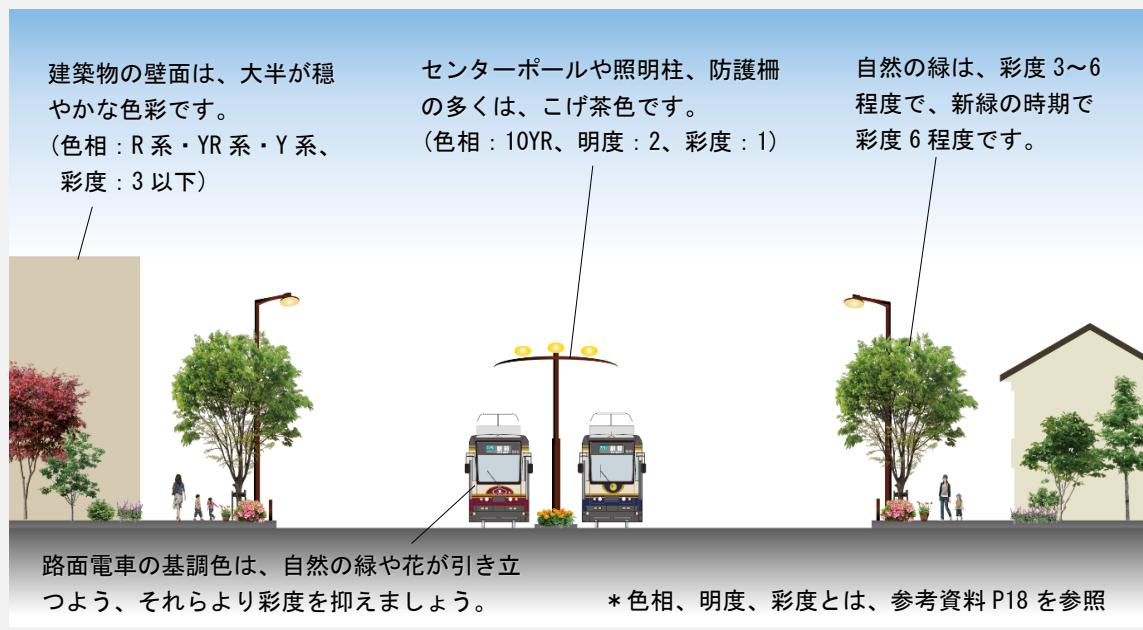
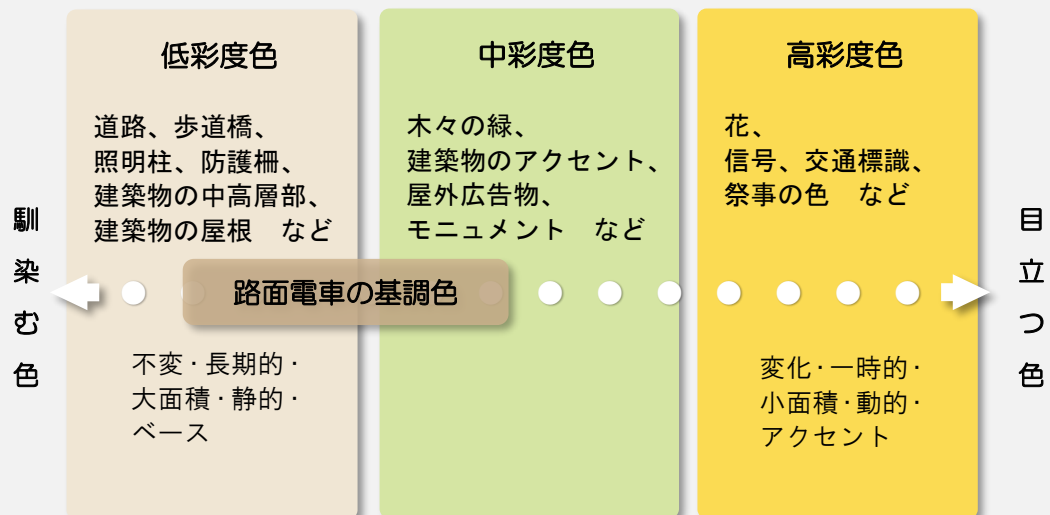


■ 美しく心地よい色彩景観とは

景観のなかには、様々な色彩が混在しており、それらの中には、目立たせるために明度や彩度を高くしているものと、周辺の景観に馴染ませるために明度や彩度を低くしているものがあり、その秩序が良好に保たれていると美しく心地よい景観と評価されます。

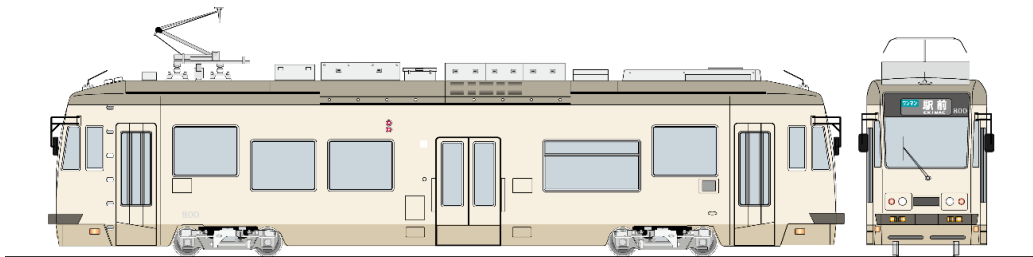
一般的に、景観の中で目立たせる色彩は、信号や標識のように重要な情報伝達を担うもの、花や緑のように小さなものや季節等によって変動するもの、一時的に使われる祭事の装飾などです。

一方、道路などの景観のベースになっているものや、建築物、工作物などのように大きな面積を持ち一年を通して同じ場所にあるものは、景観のベースになることから、周辺に馴染む低彩度の色彩を基本とし、生活に欠くことのできない情報や生活に潤いや季節感を与えてくれる四季の花々などが際立つようにします。また、建築物の低層部などに中彩度の色彩をアクセントとして用いることで、まち並みに適度な変化やリズム感を与えることもできます。

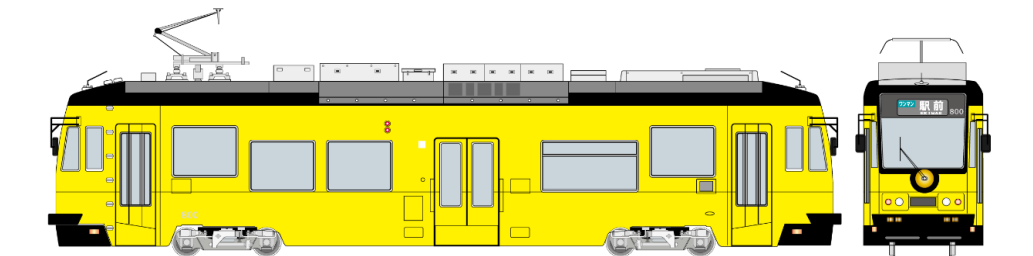


(1) 色 彩

- ・基調色（窓ガラスを除く車体の表面積の2／3以上の色）は、まち並みに調和する穏やかな色彩を基本とし、マンセル表色系（P18 参照）の彩度6を超えないようにする。
- ・鮮やかな色彩（高彩度色）を使用する場合は、アクセントとして部分的に使用するものとし、窓ガラスを除く車体の表面積の1割程度に抑える。
- ・使用する色数は、できるだけ少ないものとする。
- ・使用する色同士が、相互に調和したものとする。
- ・色の塗分けは、窓枠などの位置と調和させる。
- ・蛍光色など、道路交通に支障となる色は使用しないものとする。

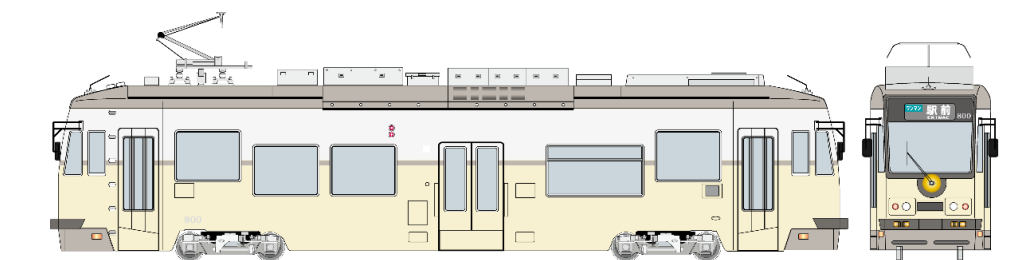
 彩度（鮮やかさ）の配慮


- 望ましい彩度：沿道のまち並みの大半は、穏やかな色彩を基調としています。周辺景観との調和を意識し、公会堂などの歴史的建築物と相互に引き立てあい、街路樹などの緑にも調和する彩度を抑えた色彩を基本としましょう。

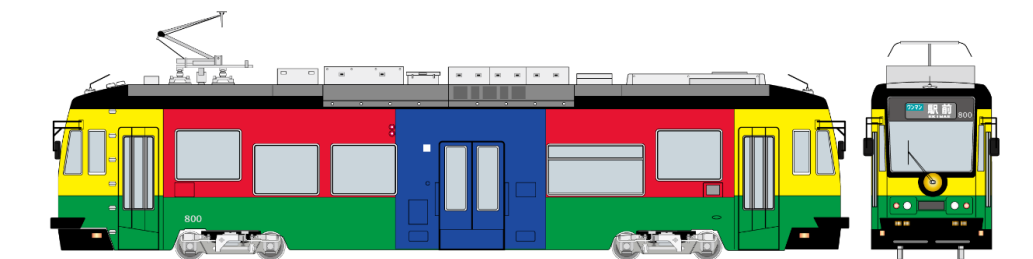


- ▲ 避けるべき彩度：派手な色彩は、周辺景観と調和せず、見る人に不快な印象を与えます。コーポレートカラーであっても、彩度の高い色彩は避けましょう。

色数の配慮

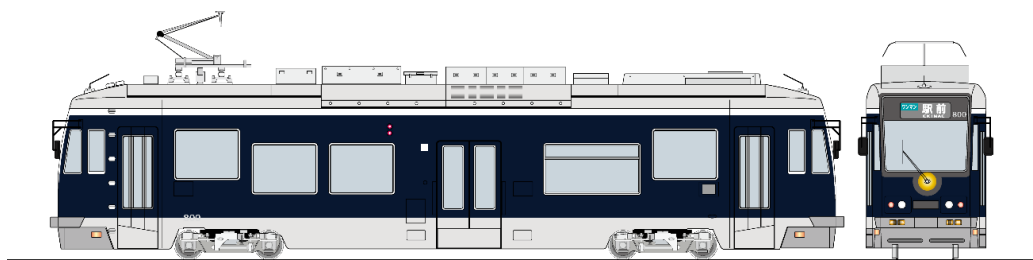


- 望ましい色数 : 絵や文字を描いた場合に全体が煩雑に見えないよう、ベースの色数は 3 色程度までとしましょう。また、色同士が調和するようにコーディネートしましょう。



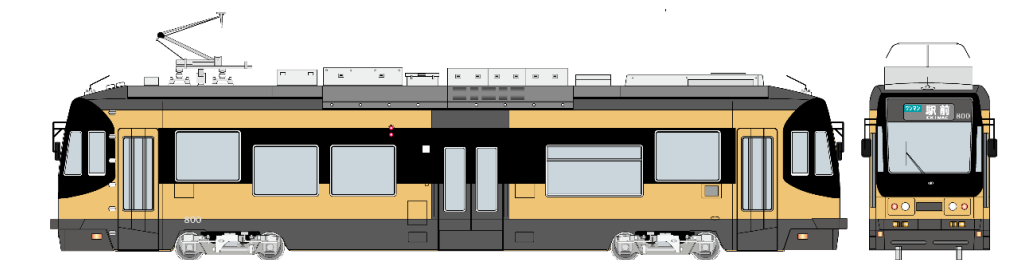
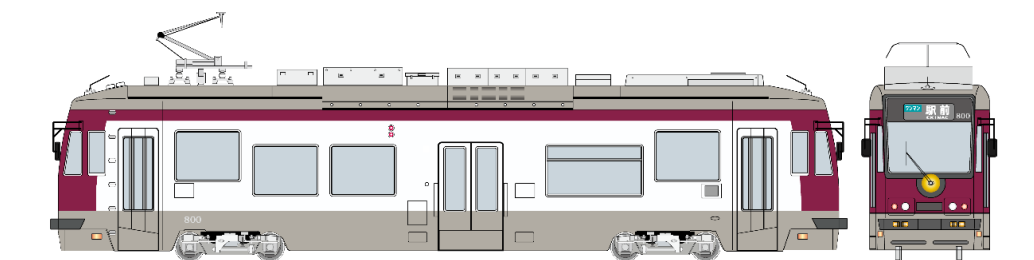
- ▲ 避けるべき色数 : ベースに多くの色数を使用すると、全体が煩雑な印象になり、まちの景観を損ねてしまいます。特に見た目の違いが大きい色彩を配色する場合は、影響が大きくなるので注意しましょう。

明度（明るさ）の配慮

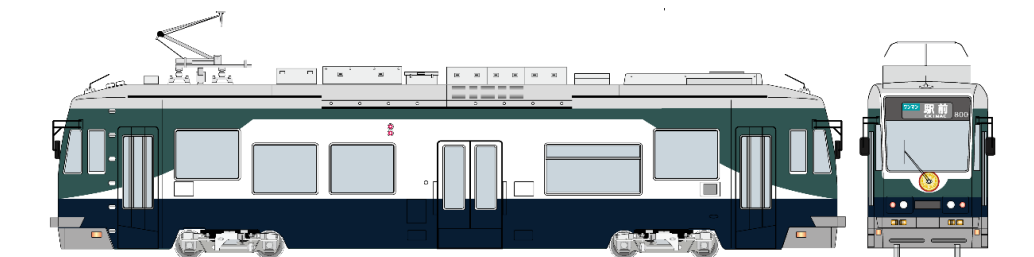
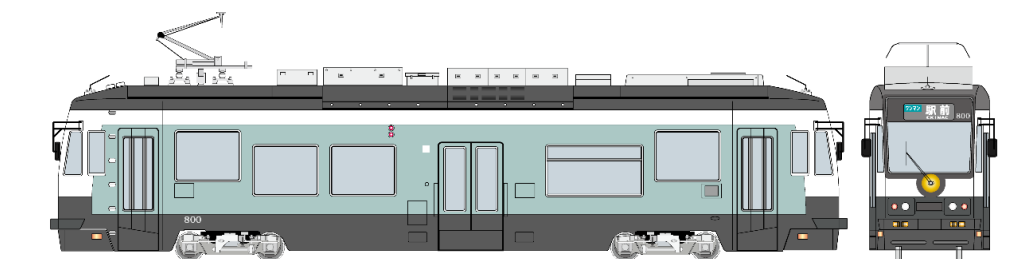


- 低明度色（暗い色）を使用する場合の配慮 : 低明度色を基調色に使用する場合は、夜間におけるドライバーからの視認性に配慮し、高明度から中明度の色彩をあわせて用いましょう。

● 暖色と寒色・中性色の使い分け

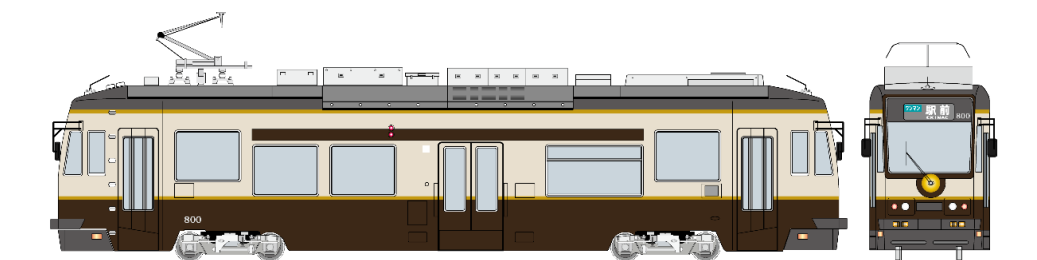
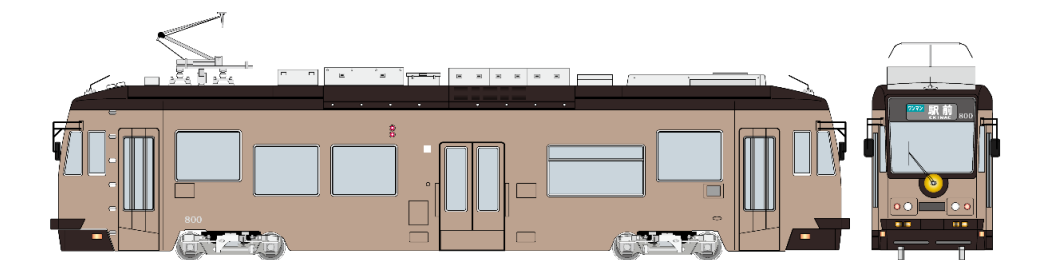


- 彩度が高めでも調和しやすい暖色：まち並みや自然は主に暖色系（色相：R、YR、Y）の低彩度色で構成されています。少し鮮やかなイメージを演出したい場合は、周辺景観と類似の色相である暖色を用いましょう。この場合は、彩度の高さに応じて使用面積を抑え、低彩度色とセットで配色しましょう。

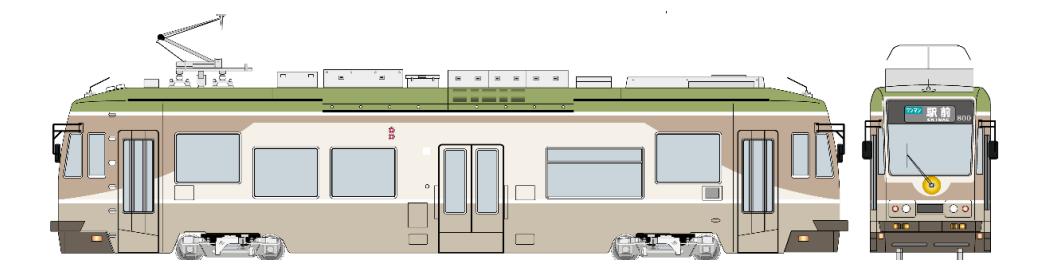
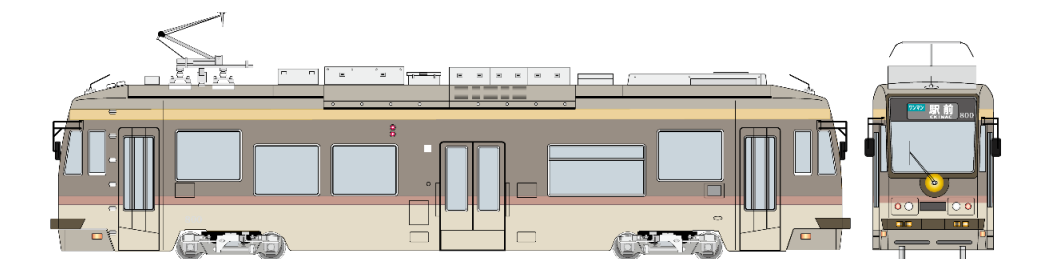


- 彩度を下げて調和を図る寒色と中性色：青色などの寒色（色相：BG、B、PB）や緑や紫などの中性色（色相：GY、G、P、RP）は、まち並みなどにあまり見られないため、調和を図ることが難しい色彩です。寒色や中性色でイメージを演出する場合は、彩度を下げて周辺景観に調和させましょう。

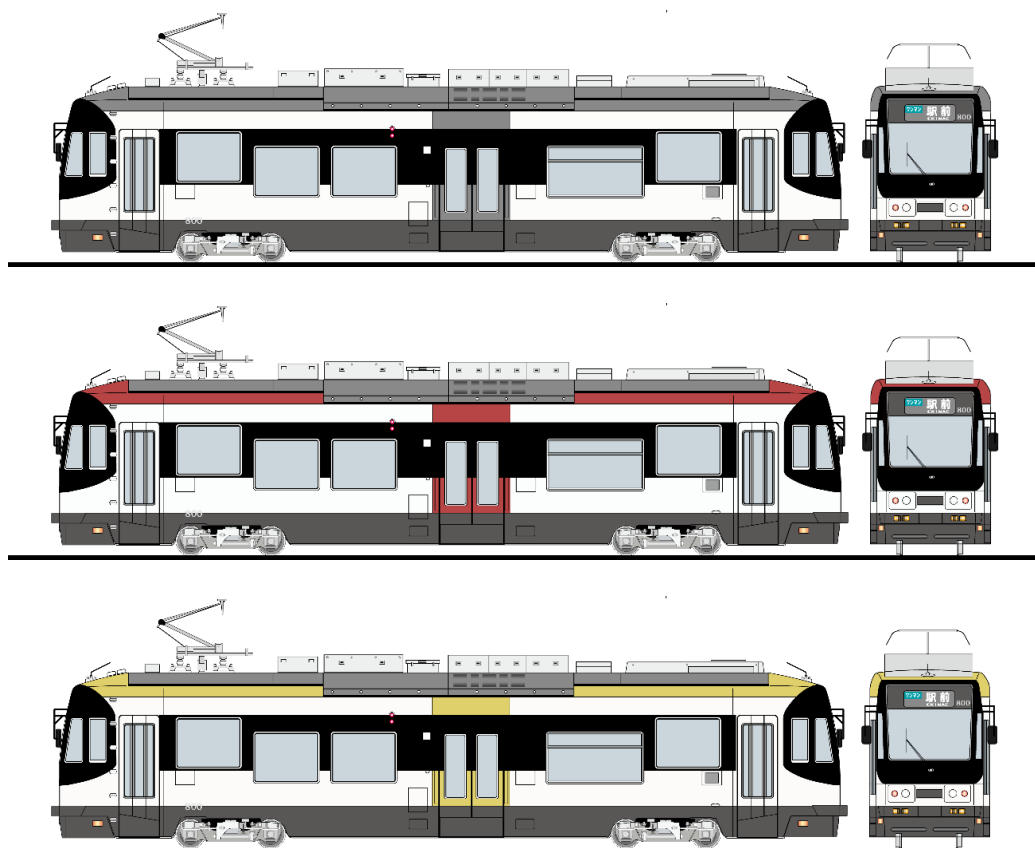
■ 配色によるイメージの演出



- クラシック系：軌道施設（センターポール、停留場上屋）や道路施設（照明柱、防護柵など）は、こげ茶色（色相：10YR）で、駅前大通りではレトロ調にデザインされています。こうした施設と同一又は類似の色彩で配色するとトータルデザインが図られるでしょう。



- ナチュラル系：ベージュやブラウン、グリーンなどのアースカラーで配色すると、穏やかで心地よい印象を演出できます。駅前の賑わいある商業地から郊外の落ち着いた住宅地まで、変化する沿線のまち並みにも調和する好印象の配色です。

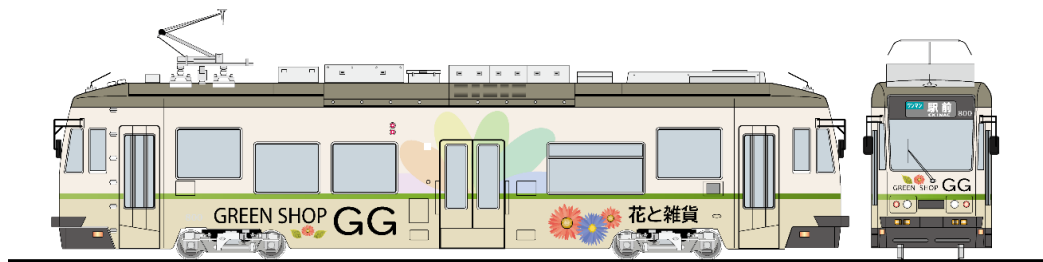


● アーバン系：無彩色（白、グレイ、黒）で配色したシックなデザインや、無彩色に彩度と明度が高めの色彩を加えて配色したコントラストのあるデザインは、都会的で洗練された印象を演出できます。洗練された車体と調和する配色です。車体の形状によっては調和しないので注意しましょう。

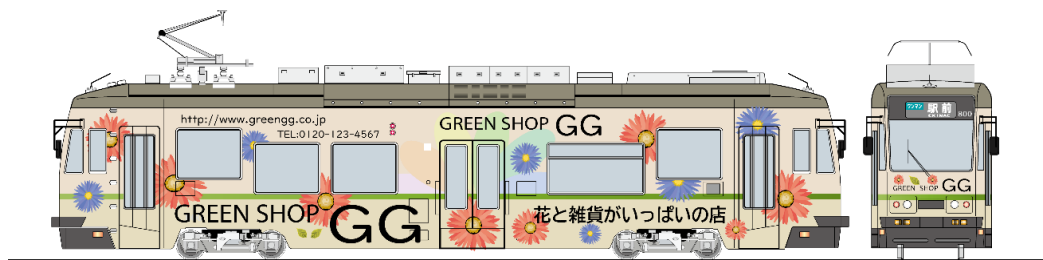
(2) 文字と絵

- ・掲載する情報を絞り込み、優先度の高い情報のみを表示する。
- ・文字や絵の表示面積は、各面の面積（窓ガラスを除く車体の表面積）の概ね 30%以下とする。
- ・文字は短く表現し、文字情報が多くなりすぎないようにする。
- ・文字の色彩は、地色と適度な差をつけるなど、判読しやすいものとする。
- ・フォントは、判読のしやすさに配慮しながら、全体デザインと調和したものとする。
- ・絵のデザインは、シンプルで、質の高いものとする。
- ・絵の色彩は、地色や文字と調和させ、色数が多くなりすぎないようにする。

情報量の配慮

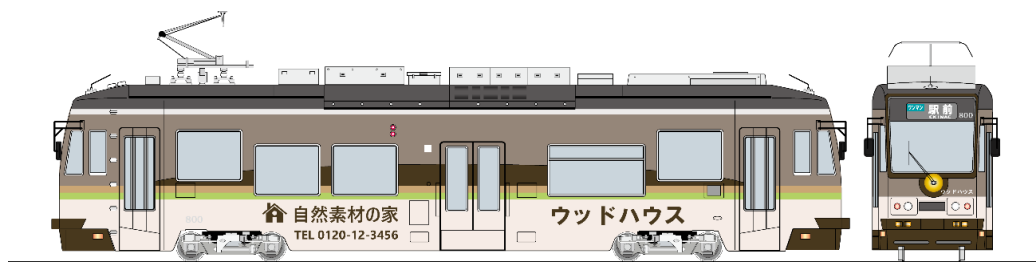


- 望ましい情報量 : 情報を絞り込むことで、シンプルでわかりやすくなり、伝えたい情報や店のイメージを心地よく伝えることができます。また、まちの景観にしっかりと収まります。

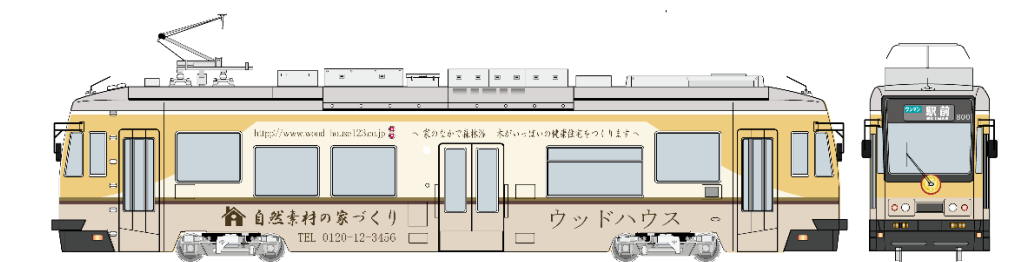


- ▲ 避けるべき情報量 : 文字や絵の情報が過剰になると、全体のデザインが煩雑になる上、見る人に伝えたい情報が届かなくなります。また、まちの景観を阻害してしまいます。

判読性の配慮

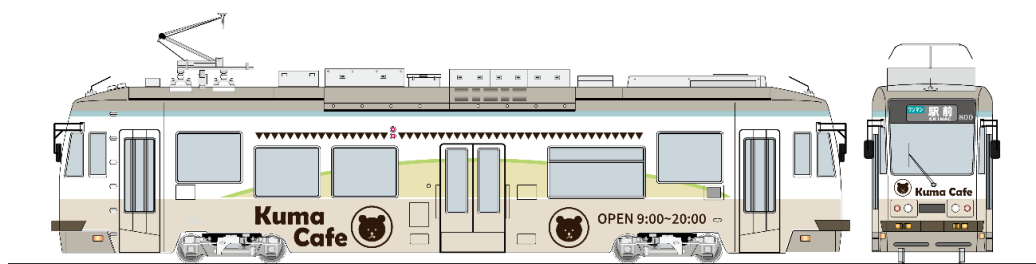


- 判読しやすい文字：地色と文字に適度な明度差をつけたり、判読しやすいフォントを用いたりすることで、情報が伝わりやすくなります。

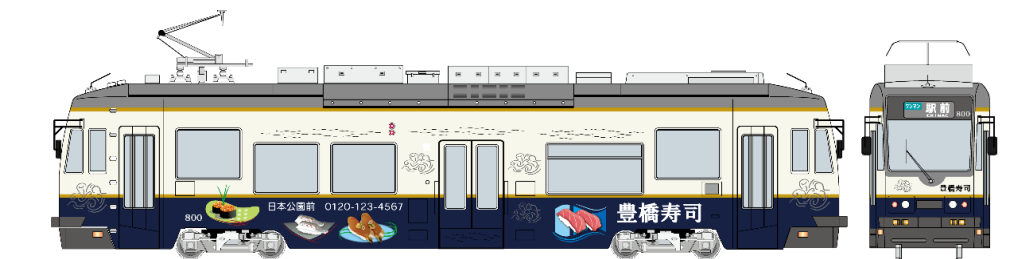


- ▲ 判読しにくい文字：地色と似た色彩の文字や、遠くから判読しにくいフォント、長い文字表記は、情報が伝わりにくくなります。

絵の表現の配慮



- 景観に馴染みやすい絵：地色と調和した色彩で、シンプルに表現した絵は、イメージが心地よく伝わります。

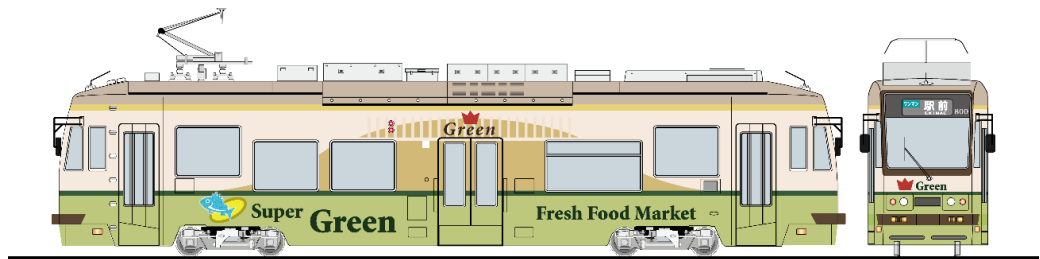


- ▲ 景観に馴染みにくい絵：複雑な絵や具象的な絵、キャラクター、写真などは、景観に馴染みにくいので、控えめにしましょう。

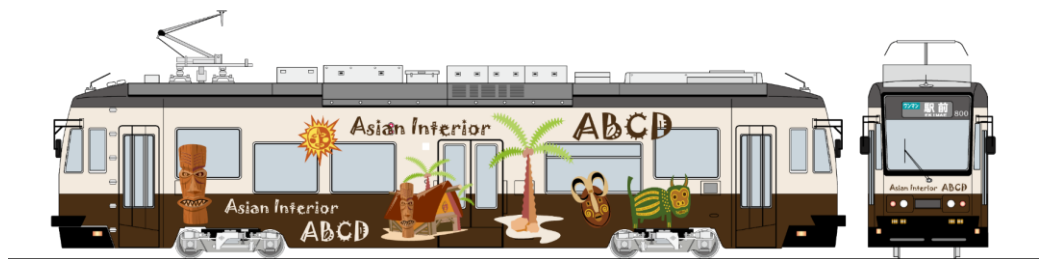
(3) レイアウト

- ・「メイン」と「サブ」の関係を明確にし、車体にあわせてバランスよく配置する。
- ・車両の正面は、表情を大切にしてデザインし、文字や絵の表示は少なめにする。
- ・窓ガラスへの表示は、基本的に避ける。
- ・文字や絵は、窓下への表示を基本とする。窓上へ表示する場合は、車体のデザインと調和がとれる範囲とする。
- ・文字や絵は、窓や扉などで分断されないように配置し、窓枠などの位置と調和させる。
- ・文字や絵の周囲には、適度な余白を設ける。

■ 情報の配置の配慮

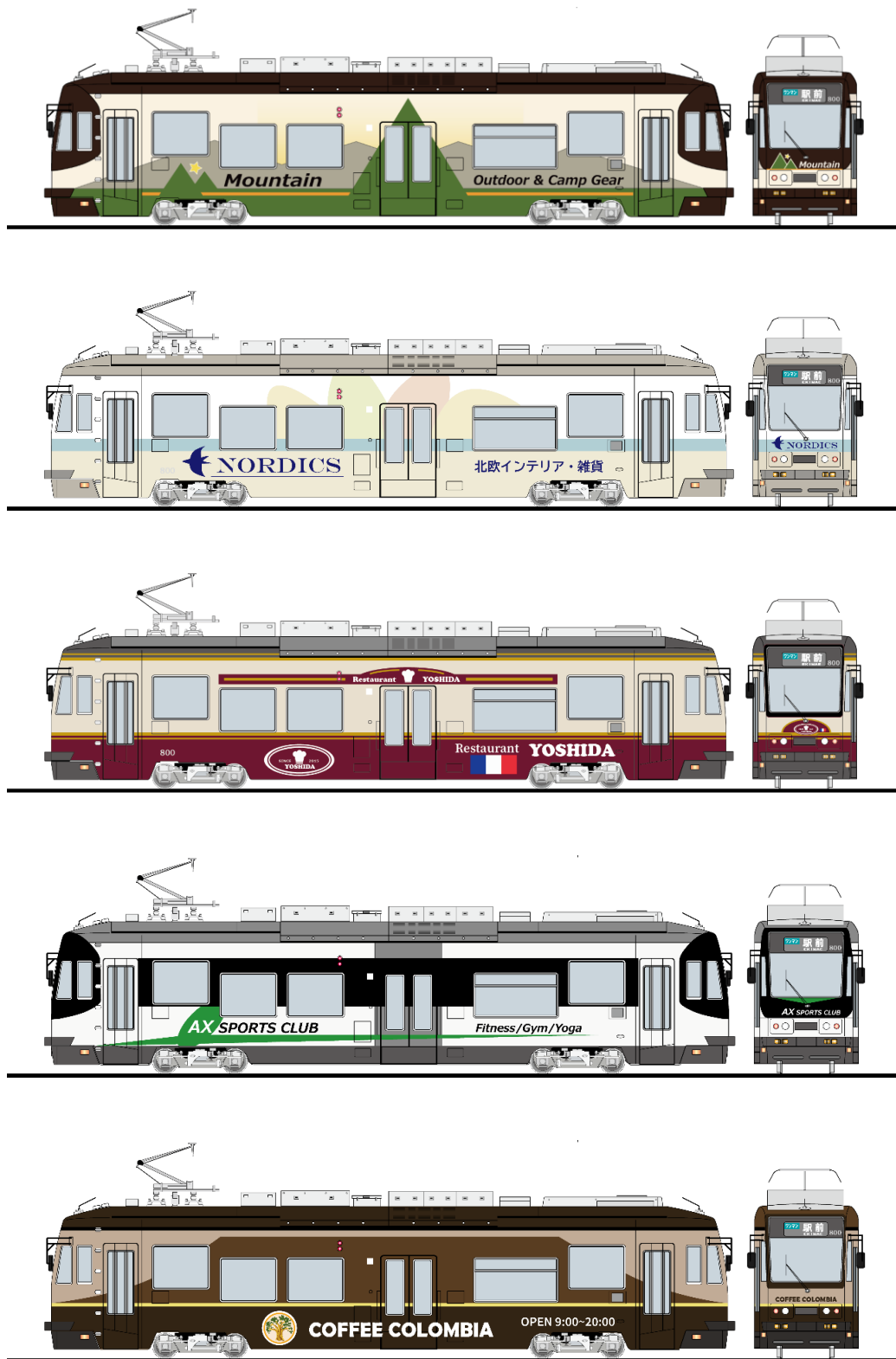


- 望ましいレイアウト：絵や文字の配置を、窓や扉などの枠線にあわせたり、まわりに適度な余白を設けたりすることで、美しく心地よいデザインになります。また、車両の正面は、愛着の持てるデザインにするなど、表情を大切にしましょう。



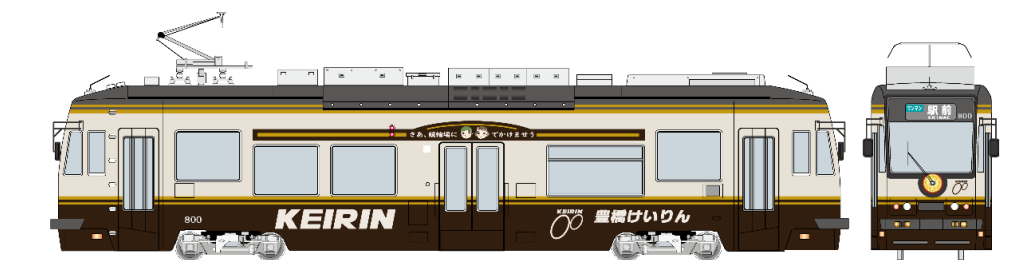
- ▲ 避けるべきレイアウト：絵や文字が、窓や扉にかかると、全体のバランスが悪くなる上、表示内容が分かりにくくなります。

■ 車体全体でのイメージの演出



- 望ましい車体全体のデザイン：商品や店の絵を直接表現してPRするのではなく、それぞれのイメージにあわせて、車体全体の配色を美しくデザインし、文字情報をシンプルにレイアウトすることで、お店のイメージを心地よく伝え、まち並みとの調和も図りましょう。

■ デザインの実例



- 豊橋けいりん号：豊橋競輪場は、昭和 24 年に開場し、戦後の豊橋の復興に大きな役割を果たし、現在は、昭和レトロのコンセプトで PR を展開しています。そこで、路面電車にも共通するレトロなイメージで全体をまとめています。ベースカラーには、センターポールと同色を採用し、公会堂などの歴史的建築物や鬼祭りなどの伝統行事の風景との調和もイメージしながらデザインしています。



■ マンセル表色系について

マンセル表色系では、色を「色相」、「明度」、「彩度」の3つの要素で表現します。日本では、JIS（日本産業規格）で規格化されています。

「色相」：色合いを表します。
R（赤）、YR（黄赤）、Y（黄）、GY（黄緑）、G（緑）、BG（青緑）、B（青）、PB（青紫）、P（紫）、RP（赤紫）の10種類の基本色を記号で表現し、記号の前に0から10の数字をつけ、色の違いを細かく表記します。

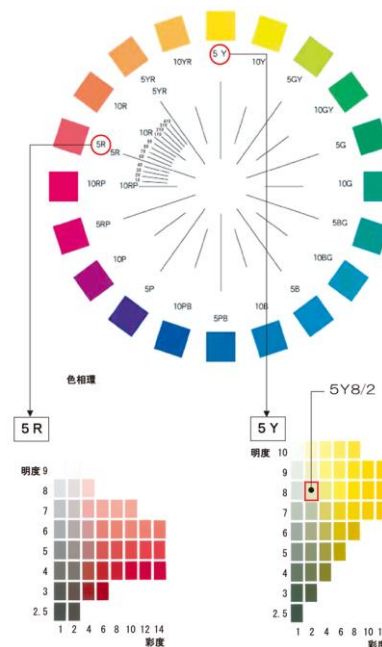
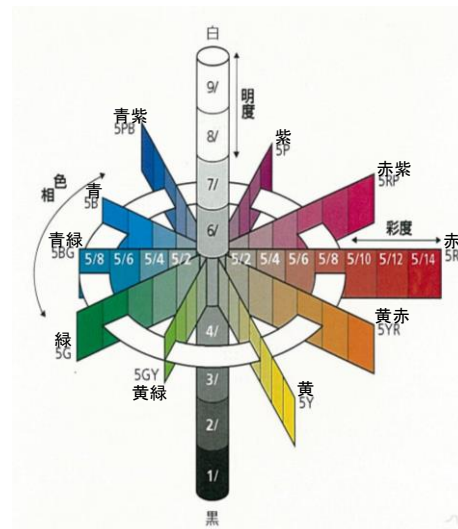
「明度」：色の明るさを表します。
0から10の数値で表現し、数字が大きくなるほど明るくなります。10は白、0は黒になります。

「彩度」：色の鮮やかさを表します。
0から16程度までの数値で表現し、数字が大きくなるほど鮮やかになります。最高彩度は色によって限界が異なるため、色相によって最高の数値が異なります。また、白、黒、灰色は無彩色（記号：N）といい彩度は0です。

色の表示は、色相、明度、彩度の順に示します。

表示例：5Y8/2

この表示例では、色相は「5Y」、明度は「8」、彩度は「2」です。





路面電車 車体広告デザインの手引き
2023 年 2 月発行

- ◆ 発行者 : 豊橋市
- ◆ 編集 : 豊橋市役所 都市計画部 都市計画課
〒440-8501 豊橋市今橋町 1 番地
TEL : 0532-51-2615
FAX : 0532-56-5108
E-mail : toshikeikaku@city.toyohashi.lg.jp
- ◆ 表紙絵 : 伊奈 彦定 「運動公園前 秋景」